

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第2回 池田市社会教育委員会議		
日 時	令和7年2月6日(木) 午後2時00分～4時00分		
場 所	池田市役所 5階 府大会議室		
出席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 田中 晋作 ・ 中路間 美貴 ・ 布谷 知夫 ・ 古田 刺男 ・ 福島 輝彦 <p style="text-align: right;">計 7名</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田渕教育長 ・ 小林教育部長 ・ 西田生涯学習推進室長 ・ 前野社会教育課長 ・ 齋藤地域教育課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 渡部中央公民館副館長 ・ 塚原図書館長 ・ 林石橋図書館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安社会教育課主幹 ・ 福島地域教育課副主幹 ・ 大門社会教育課主任主事 ・ 田上社会教育課主任主事 <p style="text-align: right;">計 14名</p> </td> </tr> </table>	<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 田中 晋作 ・ 中路間 美貴 ・ 布谷 知夫 ・ 古田 刺男 ・ 福島 輝彦 <p style="text-align: right;">計 7名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田渕教育長 ・ 小林教育部長 ・ 西田生涯学習推進室長 ・ 前野社会教育課長 ・ 齋藤地域教育課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 渡部中央公民館副館長 ・ 塚原図書館長 ・ 林石橋図書館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安社会教育課主幹 ・ 福島地域教育課副主幹 ・ 大門社会教育課主任主事 ・ 田上社会教育課主任主事 <p style="text-align: right;">計 14名</p>
<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 田中 晋作 ・ 中路間 美貴 ・ 布谷 知夫 ・ 古田 刺男 ・ 福島 輝彦 <p style="text-align: right;">計 7名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田渕教育長 ・ 小林教育部長 ・ 西田生涯学習推進室長 ・ 前野社会教育課長 ・ 齋藤地域教育課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 渡部中央公民館副館長 ・ 塚原図書館長 ・ 林石橋図書館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安社会教育課主幹 ・ 福島地域教育課副主幹 ・ 大門社会教育課主任主事 ・ 田上社会教育課主任主事 <p style="text-align: right;">計 14名</p>		
欠 席 者	佐藤秀輝		
傍 聴 者	0名		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会教育について 2. 社会教育関係事業の現状・成果・課題について 3. 部活動の地域移行について 		
配 布 資 料	<p>資料1 社会教育について</p> <p>資料1-(1)【国】第4期教育振興基本計画</p> <p>資料1-(2)【市】第2次池田市教育振興基本計画</p> <p>資料1-(3)-a【国】地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について(諮問) 【概要】</p> <p>資料1-(3)-b【国】地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について(参考資料)</p> <p>資料1-(4)【市】推進プラン</p> <p>資料2 社会教育関係 各課・施設の事業について(2回目)</p> <p>資料3 部活動地域移行説明資料</p>		

議 事 経 過

開会

(教育委員会あいさつ)

正副議長選出

議長 藤原委員

副議長 小倉委員

(議長あいさつ)

案件 1 社会教育について

資料 1 に基づき、社会教育の定義や沿革、本市の社会教育の現状について事務局より説明。

委員 事業について教育委員会と市長部局と重複しているものもあるが、連携と選択が必要。しかし、教育としても中身が大事であり、教育委員会がイニシアティブをとって進めていかななくてはならない。

委員 子どもの減少に対し、池田市はどのような対応を考えているのか。人口増は望めないなので、前向きに先手を打った対策が必要。

事務局 総合計画の中で人口推計を出し、施設の在り方について総合的に考えていく。

委員 高齢など人口区分の逆転現象が必ず起こってくる。人口減少は待ったなしであり、その時が来たら対応する、では遅い。

委員 教えるところは精一杯やっているが、教えた成果をどう人づくりにも持っていくか、その辺の提案がないように思う。博物館では、来館者と一緒に考えて次につなげるという戦略をしている。サークルを作るなど一緒に事業をやっていく人を巻き込むことを社会教育施設の目標とし、学びを発展させ工夫することに力を入れるべき。

事務局 市民企画講座やボランティアサークル活動など、市民の声を参考にしながら事業を進めたい。

委員 本市の社会教育主事の状況は

事務局 教育委員会に現在 2 名配置している。

案件 2 令和 6 年度社会教育関係各課、施設に事業について

資料 1 に基づき、各課、施設より説明

事務局 ・くれば音楽堂の耐震化、中学校部活の地域移行の進捗
・留守家庭児童会の運営状況、こども会事業
・中央公民館美術展および講座の状況

- ・図書館新システムの導入によるオンラインカード申請、蔵書数、利用者数の増減
- ・歴史民俗資料館展示活動及び館蔵資料の保存修理
- ・中央公民館予約システム導入に向け調整

委員 事業に若い人の観点、取組が必要では。また、若い職員の意欲を引き出すことも大事である。

事務局 小中学校のアンケートなどで意見を取り入れるなど、色々な意見を聞きながら事業、施策を進めていきたい。

委員 地域のこども会に行事にかかわっているが、こども会の事業で新しいことも行われているものの、ほとんどが20年以上も前から同じことの繰り返し。もっと新しい事を考え、学校においてもこども会の募集に中心になってもらえば、こども会への参加が増えるのではないか。

事務局 こども会の加入率が以前は80パーセントあったが、12～13パーセントに減少している。ブラッシュアップして子どもが生きる力をつける事業をしていきたい。

委員 昔はこども会で半強制的に地域の行事に参加していたが、今は違う。

委員 こども会の参加が少ないため、市民レクリエーション大会など地域の行事も活気がない。働き方改革で教師の参加も少なく、以前の半分である。老若男女が参加する姿を子どもたちに見せられない。PTA もやり手がないが、参加すれば子どもたちをみんなが見守ってくれる、子どもたちが育ちやすい環境になる。親も仕事の関係で参加が難しいのかもしれない。

委員 親が行事に参加できないから有償で若い人に来てもらう、有償ボランティアとして支援してもらうというような、現状にあった工夫が必要な時代になってきた。

留守家庭児童会が教育委員会に移管したが、児童数が増えていく中で、留守家庭児童会で何を育てていくか、職員の共通の教育意識、目的が必要だ。

事務局 留守家庭児童会の指導員も150名になり、研修やウェブアプリを活用し、日々の課題や問題意識、方向性というものを共有していきたい。

事務局 留守家庭児童会のほか、キッズランドの取り組みもやっているが、留守家庭、非留守家庭に関係なく放課後に子どもたちが色々な活動ができるような放課後対策が求められていると考える。

案件3 部活の地域移行について

資料3に基づき、中学校の部活の現状と課題、地域移行の利点、令和10年度に部活の地域移行を完了する計画等、事務局より説明

委員 中体連（日本中学校体育連盟）の大会はどうなるのか。

事務局 中体連について国でも議論されているが指針はまだである。

委員 スポーツ系のクラブはフォローするシステムがあるが、文化系、特に理科、科学クラブなどはほぼ全滅だ。文化系のクラブについて、公民館や博物館など公共施設での対応もできるのではないか。

事務局 文化系クラブについて、児童文化センターや公民館、歴史民俗資料館などでできるか検討する。

委員 現在、外部委託している種目団体は。また、費用や活動場所は。

事務局 現在9団体に委託。費用については今のところ市の委託料で賄っているが、会費を考えている。活動場所は中学校体育館や公共施設が使用できるよう調整したい。

閉会